

するが、この語の意は、「門の柱のますがた」なので、この句の意をなさない。因って刊本その他の書写本にある「闕」の字を採る。『菅家文章』「298 八月十五日夜、思舊有感」に「如何露溢思親處、況復潮寒望闕時」の句が見える。

○眼穿：物に穿ち入るように目を据えて見つめること。李商隱の「落花詩」に「腸斷未忍掃、眼穿仍欲稀」の句がある。『菅家文章』「111 夏夜於鴻臚館、饒北客歸郷」に「腸斷前程相送日、眼穿後紀轉來星」の句が見える。

15 ○落涙：涙を流す。又、落ちる涙。

魏文帝の「見挽船士兄弟辭別詩」に「妻子索衣袂、落涙霑懷抱」の句が見える。『田氏家集』「37 於右丞相省中直廬讀史記竟詠史得高祖應教」に「萬乘威加新海内、數行淚落故郷情」の句が見える。『菅家後集』「501 題竹床子」に「空心舊為遙踰海、落淚新如昔植湘」の句が見える。又「476 自詠」に「離家三四月、落淚百千行」の句が見える。

○朝露：朝のつゆ。久しくない喩。はかない喩。

『漢語大詞典』には「①早上的露水 ②比喻存在時間短促」と説明し、『漢書』「蘇武傳」の「人生如朝露、何久自苦如此。顔師古注、朝露見日則晞、人命短促亦如之」を引く。『白氏文集』「0048 薛中丞」に「不然君子人、何反如朝露」の句が、又「416 勸酒寄元九」に「薤葉有朝露、權枝無宿花、君今亦如此、促促生有涯」の句が、「079 泰中吟十首」に「朝露貧名利、夕陽憂子孫」の句が見える。『文華秀麗集』「90 奉和侍中翁主挽歌詞二首 菅清公」に「向朝傷薤露、欲暮泣楊風」の句が見える。『凌雲集』「64 奉和傷右近衛大將軍坂宿禰 御製」に「滋叢唯泣早朝露、古木空浮薄暮煙」の句が見える。